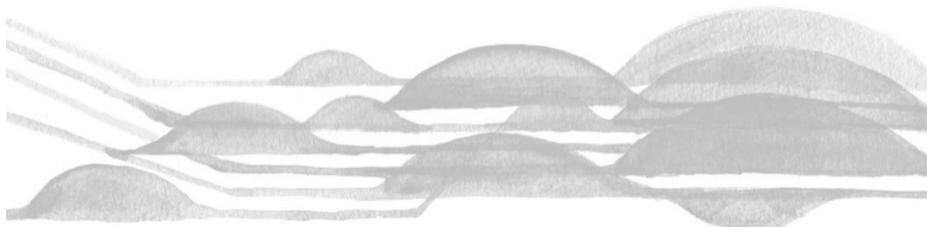


1. 大会参加時の留意点

- 定員のあるプログラムへの参加申し込みは先着順です。一部のプログラムを除き、**定員のないプログラムも参加申し込みは必要**です。締切は2022年3月17日13:00です。
- 守秘義務にご留意の上、参加申し込みの際に誓約いただいた内容を守ってください。
- Zoomでの名前の表記は『**氏名(フルネーム例:湘南未来)／所属名**』にしてください。
- プログラムによっては配布資料があります。マイページに表示される各プログラム名横のPDFファイルからダウンロードできます。
- 一般演題
 - ・オンデマンド配信です。参加申し込み完了後、**3月5日(土)～21日(祝)**の配信期間中、任意の時間帯に視聴が可能です。
 - ・マイページより動画配信ページへ移動し、動画タイトルをクリックすると視聴できます。
 - ・質疑応答やディスカッションの場としてコメント欄を設けています。
 - ・発表者がリアルタイムで返信を予定する場合、コメント欄の冒頭に時間帯が記入されます。
 - ・コメント欄への書き込みは**3月20日(日)16:30**に終了します。
- 21日の対面開催
 - ・参加申し込みは先着順になります。どなたでも参加可能です。
 - ・当日、各地の会場(オンライン会場はZoom)では、**9:30～9:50**に受け付けします。

2. プログラムへの参加方法

- 参加申し込み不要のプログラムには、大会に参加されている全ての方が入れます。
- 参加費の支払いが確認された時点で申込完了となります。プログラムの変更やキャンセルはできません。



プログラム

第1日目 3/19(土)

企画名	定員	申込	参加資格	録画録音	カメラOFF
大会企画ワークショップ					
1. 特別講演のあとに	なし	不要	なし	有	不可
2. グループはどのようにして集団精神療法的になるのか —コンダクターはグループでどのように機能すべきか—	40名	要	なし	有	不可
3. 学校現場で生きる集団精神療法のエッセンス —教師集団・授業・スクールカウンセラー—	なし	要	なし	有	不可
4. ひきこもり支援にグループの視点を活用する —MHFAとCRAFTを応用したひきこもる個人と集団の橋渡し—	なし	要	なし	有	不可
5. 災害とメンタルヘルスに関する相互支援グループ	17名	要	なし	有	不可
6. 研究倫理について語る Part2 —集団精神療法における“研究倫理ガイドライン Ver.1”の完成とこれから—	17名	要	なし	有	不可
体験グループ					
体験グループ I	10名	要	会員	有	不可
自主ワークショップ					
① からだへの再帰 —多様性と調和の身体自己の探求—	15名	要	なし	なし	不可
② ナラティブなグループアプローチを体験する(その11) —話題設定のない体験グループへのリフレクティングの応用—	16名	要	なし	有	不可
③ “機能的サブグループ”で「今、ここで」の体験を探求する	12名	要	なし	有	不可
④ “感情”を理解するためには —症例検討のやり方<実践編>	なし	要	なし	なし	可
⑤ 戦争体験のシェアリングに向けた試み —コロナ禍にオンラインで演じ・語り合う—	20名	要	会員	有	不可

第2日目 3/20(日)

企画名	定員	申込	参加資格	録画録音	カメラOFF
大会企画ワークショップ					
7. グループにおけるメンタライジング —その体験的発見と可能性の追求—	60名	要	なし	有	不可
8. 現場に応じてあれこれとグループを使い分けて活用する	25名	要	なし	有	可
9. グループの視点から地域支援を考える —子ども食堂における支援者たちとの対話の試み—	50名	要	なし	有	不可
10. アディクションと集団精神療法のエッセンス —ソシオドラマを用いて探究する—	16名	要	なし	有	不可
11. 自分の体験を語り、リフレクションを通して、臨床現場に起きていることを探索する試み ～治療共同体の視点から～	18名	要	なし	有	不可
12. 渉外委員会企画・集団精神療法の魅力再考 —JAGPの社会的価値を高めていくために—	なし	要	なし	有	可
体験グループ					
体験グループⅡ(入門コース)	10名	要	会員	有	不可
基礎講座					
基礎講座	なし	要	会員	有	不可
自主ワークショップ					
⑥ 日本学術会議会員任命拒否問題を集団精神療法家が考える —第2回 トップダウン型の組織運営について—	なし	要	なし	有	不可
⑦ いわゆる「Dr. Y 問題」と呼ばれる出来事と「学会のトラウマ」をめぐって —part IV 22+4年目のワークスルー—	21名	要	会員	有	不可
⑧ コロナ禍における精神科救急病棟での集団精神療法の実践と意義 —パンデミック下でグループの果たす役割—	18名	要	なし	有	不可
⑨ こうえん —出入り自由の体験グループ—	なし	不要	なし	有	可



第3日目 3/21(祝) 対面開催

- ・対面開催の会場, 定員, 各地の主たる協力者, 演者, 司会, コンダクターは下記の表の通りです。
- ・なお, 会場や定員数などに変更の可能性があります。随時大会ホームページでお知らせします。
- ・対面開催のグループへの参加が難しい方は, オンライン・グループへ参加申し込みができます。

地域	会場	定員	各地の主たる協力者
北海道 (札幌)	札幌医科大学教育研究棟 I G201 教室	30 名	鎌田明日香 (大通りつげのクリニック)
東北 (盛岡)	アイーナいわて県民情報交流センター 5 階 501A 室	19 名	安部康代 (安田病院)
関東 (埼玉)	聖学院大学	30 名	加藤祐介 (赤城高原ホスピタル)
関東 (東京)	ワйм貸会議室お茶の水 ルーム B	30 名	高橋馨 (杉並子ども家庭支援センター)
	ワйм貸会議室お茶の水 ルーム D	30 名	
関東 (湘南)	おだわら市民交流センター 第1・2会議室	30 名	藤澤希美 (国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科)
東海 (愛知)	ウィンクあいち 908 小会議室 B	30 名	多喜田恵子 (岐阜保健大学看護学部看護学科)
関西 (京都)	京都テルサ 中会議室(東館 2 階)	30 名	菊地寿奈美 (京都市スクールカウンセラー)
中国 (広島)	東区民文化センター 中会議室	30 名	菅武史 (広島市スクールカウンセラー)
四国 (松山)	松山市総合コミュニティセンター	20 名	白柿綾 (聖カタリナ大学)
九州 (博多)	九州大学 (馬出 九大病院キャンパス)	30 名	加藤隆弘 (九州大学病院精神神経科)
沖縄 (那覇)	琉球大学人文社会学部 111 教室	25 名	野村学 (オリブ山病院・沖縄県スクールカウンセラー)
オン ライン	Zoom	なし	加本有希 (相模原市立青少年相談センター)

各地の演者とコンダクター

地域	演者	体験グループ コンダクター
北海道 (札幌)	<司会> 田辺等 (北星学園大学) <演者> 前田潤 (室蘭工業大学) 木村睦 (北海道立向陽学院)	山本薫 (北仁会 旭山病院) 山本創 (北仁会 石橋病院)

東北 (盛岡)	稲村茂 (メンタルクリニック秋田駅前)	藤澤美穂 (岩手医科大学教養教育センター) 安部康代 (安田病院)
関東 (埼玉)	荒木章太郎(爽風会 心の風クリニック) 小川悠介 (群馬会 群馬病院) 勝見隆二 (川越同仁会病院) 田口明子 (栃木県公認心理師協会)	加藤祐介 (赤城高原ホスピタル) 桜庭拓郎 (恵愛会 青木病院)
関東 (東京)	<司会> ト部裕介 (公立学校共済組合 関東中央病院) 月江ゆかり(ヒューマンケアクラブ ストライド) <演者> 鈴木純一 (東京集団精神療法研究所)	ト部 裕介 (公立学校共済組合 関東中央病院) 月江ゆかり(ヒューマンケアクラブストライド)
	<司会> 林公輔 (学習院大学文学部心理学科) 岡田 靖子(訪問看護ステーションてんとうむし) <演者> 武井麻子 (Office-Asako)	林公輔 (学習院大学文学部心理学科) 岡田靖子 (訪問看護ステーションてんとうむし)
関東 (湘南)	長谷川麻弓(あつぎ心療クリニック)	藤澤希美 (国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科) 梶本浩史(東京都公立学校スクールカウンセラー)
東海 (愛知)	式守晴子(聖隷クリストファー大学非常勤講師)	多喜田恵子(岐阜保健大学看護学部看護学科) 式守晴子(聖隷クリストファー大学非常勤講師)
関西 (京都)	川合裕子(豊中市保健所/小阪病院)	高富栄 (ココころのクリニック) 菊地寿奈美(京都市スクールカウンセラー)
中国 (広島)	菅武史 (広島市スクールカウンセラー)	菅武史 (広島市スクールカウンセラー) 陶山文隆(宗近病院)
四国 (松山)	白柿綾 (聖カタリナ大学)	白柿綾 (聖カタリナ大学) 片岡かおり(松山記念病院)
九州 (福岡)	加藤隆弘 (九州大学病院精神神経科) 二之宮正人(八幡厚生病院) 衛藤暢明 (福岡大学病院) 齊藤 雅 (八幡厚生病院) 堀川公平 (風と虹グループ) 坂口信貴 (くるめ生活精神科医療研究所)	加藤隆弘 (九州大学病院精神神経科) 二之宮正人(八幡厚生病院)
沖縄 (那覇)	野村学(オリブ山病院・沖縄県スクールカウンセラー) 中村綾子 (田崎病院) 阿賀嶺壮志(つかさクリニック) 安里由紀子(サマリヤ人病院) 草野智洋 (琉球大学)	野村学(オリブ山病院・沖縄県スクールカウンセラー) 中村綾子 (田崎病院)
オン ライン	関百合 (クボタ心理福祉研究所) 岡島美朗(自治医科大学附属さいたま医療センター)	岡島美朗(自治医科大学附属さいたま医療センター) 加本有希(相模原市立青少年相談センター)

プログラムの詳細

19日(土) AM

【Live 配信】

大会長講演

10:00~10:45

未来へ継承したい集団精神療法のエッセンス

<大会長> 梶本浩史 (東京都立学校スクールカウンセラー)
<司会> 田辺等 (北星学園大学)

「土壌を耕す」「情報・知恵・感情のうつわ」「体験的に学ぶ」「自分らしく」「multiple leadership」。集団精神療法について語るときに、キーワードとしてよく自分が用いている言葉はいくつか浮かびます。ただ、集団精神療法のエッセンスは何なのか、一言にまとめられません。そこで、この問いそのものを大会テーマにしました。大会という「グループ」で皆さんと学びあいたいから、まとまらなくても話すことから始めます。

特別講演

11:00~12:00

分人主義

<演者> 平野啓一郎
<司会> 武井麻子 (Office-Asako) 梶本浩史 (東京都立学校スクールカウンセラー)

私たちは居場所や相手によって「キャラ」を使い分けている。それは誰もが体験的に知っていることだと思います。問題は、それを否定的に捉え、唯一の「本当の自分」が存在すると思込んでしまうことではないでしょうか。私は、人が複数の顔を持つのは自然な現象だと肯定的に捉え直すためのモデルとして、「分人主義」を提唱してきました。集団精神療法学会の皆様とこの概念をどのように考えることができるか、楽しみにしています。

総会

12:10~13:10

19日(土) PM

【Live 配信】

大会企画ワークショップ 1

14:00~17:00

特別講演のあとに

梶本浩史 (東京都立学校スクールカウンセラー)
長谷川麻弓 (あつぎ心療クリニック)

平野啓一郎氏による特別講演「分人主義」のあとに、話せる場を設けました。プログラムへの申し込みは不要です。どなたでも参加できます。

大会企画ワークショップ 2

14:00~17:00

グループはどのようにして集団精神療法的になるのか
—コンダクターはグループでどのように機能すべきか—

田辺等 (北星学園大学)
片岡圭美 (綾瀬病院)
加藤祐介 (赤城高原ホスピタル)

このWSは、グループを活用した臨床における集団精神療法的な効果とはどのようなものか、集団精神療法的な運営のために担当者が留意すべき点は何かなどを検討します。初めに、企画者の田辺が基礎的な小講義をし、片岡(OT)と、加藤(CP)が実践での経験、そこでの問題意識などを報告します。その後、参加者全体で、大グループで自由に話し合い、グループを集団精神療法的に運営し、機能させていく知恵と経験を分かち合いたいと思います。

大会企画ワークショップ 3

14:00~17:00

学校現場で生きる集団精神療法のエッセンス —教師集団・授業・スクールカウンセラー—

鎌田明日香 (札幌市スクールカウンセラー)
菅武史 (広島市スクールカウンセラー)
大橋良枝 (聖学院大学)
齋藤妃富美 (公立小学校教諭)
庄司真理 (東京都公立学校スクールカウンセラー)

学校現場にいる人たちが、「集団精神療法のエッセンス」を活用することで、専門や立場の違いを超え、個性を生かし安心して協働できたり、人々の成長が促進されたりする可能性はないだろうか。

3名のパネリストが、教師集団を機能させること、一斉授業で共に学ぶこと、SCと学校の関係性、などについての実践を話題提供する。それを呼び水に、参加者とディスカッションをし、“自由な対話が学びの場をより豊かにしていく”ことを体感できるワークショップにしたい。

大会企画ワークショップ 4

14:00~17:00

ひきこもり支援にグループの視点を活用する

—MHFAとCRAFTを応用したひきこもる個人と集団の橋渡し—

加藤隆弘 (九州大学大学院医学研究院精神病態医学/九州大学病院 気分障害ひきこもり外来)
境泉洋 (宮崎大学教育学部/ KHJ 全国ひきこもり家族会連合会)
久保浩明 (宮崎大学医学部精神医学分野/九州大学大学院医学研究院精神病態医学)

本WSでは、メンタルヘルスファーストエイド(MHFA)およびCRAFT(Community Reinforcement And Family Training)を活用して、ひきこもり当事者およびその家族の支援を実践している企画者が、ひきこもり支援にグループを活用する意義を紹介し、具体的にそのメソッドを共有します。ひきこもり支援にアレンジしたMHFA/CRAFTのエッセンスをオンラインで体験してもらいます。

大会企画ワークショップ 5

14:00~17:00

災害とメンタルヘルスに関する相互支援グループ

山本創 (石橋病院)
安部康代 (安田病院)
高富栄 (こころのクリニック)
長友敦子 (宮城県子ども総合センター)
橋本明宏 (慈雲堂病院)
針生江美 (所属なし)
藤信子 (所属なし)
藤澤美穂 (岩手医科大学教養教育センター)

相互支援グループは 2011 年に始まり、これまで全国各地で開催されてきました。災害の体験とその支援の経験だけでなく、支援に行かなかった気持ち、離別、葛藤、孤立といった生活の中での危機的状況の経験など、様々なことが広く深く語られる場となってきました。COVID-19 の世界的な感染拡大という現在の災害状況下、今ここで、対話をする場をもちます。災害とメンタルヘルスに関することに関心がある様々な立場の方の参加を歓迎します。 【85 分×2 セッション 定員 17 名】

大会企画ワークショップ 6

14:00～17:00

研究倫理について語る Part2 一集団精神療法における「研究倫理ガイドライン Ver.1」の完成とこれから一

菊地寿奈美 (京都市スクールカウンセラー)
 武井麻子 (Office-Asako)
 白柿綾 (聖カタリナ大学)
 岡島美朗 (自治医科大学付属さいたま医療センター)
 高橋馨 (杉並子ども家庭支援センター)
 斐岩秀章 (埼玉工業大学)
 嶋田博之 (東日本少年矯正医療・教育センター)
 田代志門 (東北大学大学院文学研究科社会学専攻分野准教授)

本学会では 2021 年6月に「研究倫理ガイドライン」を発効した。研究倫理は対象者尊重が柱であるが、研究者/実践者の立場からは活動の制約になるのではないかと危惧も生じる。しかし、研究倫理は対象者尊重を行いながら、研究/実践も成立させる枠組みであり、我々にとっての安全な道しるべにもなる。集団精神療/グループ実践を行う我々の学会にとって研究倫理はどうあるべきなのか、これから進む道について、社会学・生命倫理学がご専門の田代志門氏をお招きしてお話を伺い、参加者と議論したい。

体験グループ I

【会員限定】

14:00～17:00

関百合 (クボタ心理福祉研究所)
 林公輔 (学習院大学)

自主ワークショップ ①

14:00～17:00

からだへの再帰 一多様性と調和の身体自己の探求一

神宮京子 (群馬病院)
 荒川香代子 (ボディ・マインド・ヘルスセンター)
 廣瀬優希 (八幡市教育支援センター)

対面ワークの休止やオンライン・ワークにおける身体不在の問題は、身体への希求性を驚くほどに掻き立てる。遠く離れていなくても、バーチャル空間であっても、安全基地としての身体を掘り起こし、ボディフルな自分自身でありながら他者との関りをクリエイティブに育んでいけないものだろうか。ダンス/ムーブメントセラピーやソマティックな視点に基づく口頭発表と体験ワークを通して探求していきたいと考えている。

自主ワークショップ ②

14:00～17:00

ナラティブなグループアプローチを体験する(その 11) 一話題設定のない体験グループへのリフレクティングの応用一

望月洋介 (浜松医科大学)
 田代順 (山梨英和大学)

本 WS は、その 8 より体験グループにリフレクティングを応用するという形をとってきたが、これまでは話し合うテーマを設定した形をとってきた。今年度は、グループの場に生じる事柄を体験しやすくするために、テーマを設定しない体験グループにリフレクティングを応用する。この体験グループを通じて、グループの場に生じる様々な事柄に対し、リフレクティングがどのような効果を発揮するのか、参加者と共に理解を深めたい。

自主ワークショップ ③

9:30~12:30

“機能的サブグループ”で「今、ここで」の体験を探求する

鴨澤あかね（北星学園大学）
大島寿美子（北星学園大学）
泉屋有理（相川記念病院）

機能的サブグループを用いたグループでは、一定の「語りの形式」と「今、ここで(here and now)」の体験を語る、という、「語りの内容」が規定されます。つまり、話したいことを話したいように語る一般的なグループとは大いに異なっています。その語り方が、「今、ここで」の体験の探求を促し、新しい発見へとつながるからです。これまで体験したことのないグループ体験に好奇心のある方、ぜひご参加ください。一緒に「今、ここで(here and now)」の体験を探求しましょう。

自主ワークショップ ④

14:00~15:30(90分)

“感情”を理解するためには 一症例検討のやり方<実践編>

柴田応介（アパリクリニック）

ZOOM で症例検討会をやってみましょう。資料を準備する必要はないので、皆さん是非ご参加ください。自由な発言を期待しています。カメラ OFF でもかまいませんが、できれば普通の対面の会のように顔を見ながら話せるとよいと思います。

自主ワークショップ ⑤

【会員限定】

14:00~15:30(90分)

戦争体験のシェアリングに向けた試み ―コロナ禍にオンラインで演じ・語り合う―

藤堂信枝（白峰クリニック／山本メンタルクリニック）
高林健示（クボタ心理福祉研究所／東京集団精神療法研究所）
野村学（オリブ山病院／沖縄県スクールカウンセラー）

本ワークショップは第 31 回大会企画ワークショップに始まり、5 回目となります。76 年前の沖縄戦の一場面を演じることで“戦争を体験し”，このコロナ禍で戦争のみならずトラウマを抱えて生きることについて考えます。また演じることで生じる感情反応から、社会的トラウマが「わたし」に及ぼす影響や受け止め方について考えます。皆さんと共に「戦争」にまつわる思いを語り合い、なかなかふれられないことに向き合う時間にしたいと考えています。

CGS ミーティング

17:15~18:00

懇親会

18:15~19:45

20日(日) AM

【Live 配信】

大会企画ワークショップ 7

9:30~12:30

グループにおけるメンタライジング —その体験的発見と可能性の追求

西村馨 (国際基督教大学)
尾上明代 (立命館大学)
秋田悠希 (東京少年鑑別所)
相田信男 (群馬病院)

最近, MBT とかメンタライジングが注目を集めています。メンタライジングはすでに私たちがやっていることなので、「すでにあるものとして発見」する方がわかりやすいです。ここでは、いくつかのトピックを取り上げ、少し体験的ワークをし、そこで触れた共通エッセンスとしてメンタライジングを知っていただきたい。そして、「ああ、だったらこんなふうに使えんじゃない?」といったことを一緒に考えられたらと思っています。

大会企画ワークショップ 8

9:30~12:30

現場に応じてあれこれとグループを使い分けて活用する

稲村茂 (メンタルクリニック秋田駅前)
米山奈奈子 (秋田大学大学院医学系研究科)
佐々木恵美子 (千秋学園)
山田志保 (秋田県中央児童相談所)
大波幸美 (市立秋田総合病院)
齊藤衆子 (メンタルクリニック秋田駅前)

医療現場のみならず、地域の様々な現場で広範な対象に対してグループを活用していく場合は、一期一会の可能性も高く、傷つきに注意しながら行う必要がある。一つのグループ技法にこだわるのではなく、各技法のエッセンスを折衷的にアレンジする姿勢が大事である。こうした工夫を凝らすことで、むしろ集団精神療法の方法としての幅広さと普遍性、有用性を実感できると考える。ここではグループについて柔軟な視点から語りたい。

大会企画ワークショップ 9

9:30~12:30

グループの視点から地域支援を考える —子ども食堂における支援者たちとの対話の試み—

那須里絵 (国際基督教大学 教育研究所)
加本有希 (相模原市立青少年相談センター)
木村能成 (国際基督教大学 教育研究所)
塚瀬将之 (式場病院)

本ワークショップでは、子ども・若者への地域支援の代表的取り組みとして、子ども食堂を取り上げ、グループの視点をういた地域支援の在り方を検討する。その際、専門職のみならず、多様な立場にある支援者との対話を通して、地域支援の工夫や限界について検討する。前半でレクチャー、後半でグループセッションを実施し、参加者も含めた全員で地域で子どもを支援することについて自由に語り合い、相互理解を深めたい。子どもの臨床、子ども食堂、地域支援、多職種連携に関心のある専門家・非専門家、大学生・大学院生の参加を歓迎する。

大会企画ワークショップ 10

9:30~12:30

アディクションと集団精神療法のエッセンス —ソシオドラマを用いて探究する—

荒木章太郎 (心の風クリニック)
藤堂信枝 (白峰クリニック/山本メンタルクリニック)
加藤祐介 (赤城高原ホスピタル)
中里容子 (明治大学子どものこころクリニック)

本ワークショップでは、J.L.モレノが創始したソシオドラマを用いて依存症者のグループを体験する。彼らの役割を演じることで、彼らが集団で体験していることやアディクション問題を抱える人達への理解を深めたい。また、この役割体験を元に参加者の皆さんとの相互交流から集団精神療法のエッセンスを鮮明にしていく。依存症者と関わっている方もそうでない方もご参加いただき、様々な観点から検討をできることを期待している。

大会企画ワークショップ 11

9:30~12:30

自分の体験を語り、リフレクションを通して、臨床現場に起きていることを探索する試み
～治療共同体の視点から～

川合裕子 (豊中市保健所/小阪病院)
市来千絵 (株式会社 N・フィールド)
田中怜子 (なし)
樋掛忠彦 (つどいのクリニック柿田/長野県立こども病院)
宮城崇史 (ももの木学園/京都桂病院)

私たちのアクション(意図しないものを含めた振る舞い、行為、態度など)は、組織の影響を受け、組織に影響を与えます。この双方向の関係を眺めることは、組織が目指す本来の目的の確認や、組織に所属する個人が果たすべき役割と効果的な働き方の探究につながり、最終的には利用者の利益になると考えます。当日は、それぞれの参加者が自身の所属組織におけるアクションを振り返り、無意識に担っている役割や葛藤との関連を考える機会になればと考えています。

大会企画ワークショップ 12

9:30~12:30

渉外委員会企画・集団精神療法の魅力再考 —JAGP の社会的価値を高めていくために—

高橋馨 (杉並子ども家庭支援センター)
大橋良枝 (聖学院大学)
片岡圭美 (綾瀬病院)
小宮敬子 (日本赤十字看護大学さいたま看護学部)
桜庭拓郎 (青木病院)
嶋田博之 (東日本少年矯正医療・教育センター)
月江ゆかり (特定非営利活動法人ヒューマンケアクラブ ストライド)
林公輔 (学習院大学)
水田博子 (特定非営利活動法人つつじ)

今回のワークショップテーマを、「集団精神療法の魅力再考」という会員にとっては何とも恥ずかしくなるような名前に、私たち渉外委員会ワーキンググループは決めた。気持ちは真っ向勝負である。長期入院の統合失調症の人々との関係も、矯正施設や福祉施設での集団運営も、スクールカウンセリングにおける心理臨床も、集団を除外して語ることはできない。私たちの臨床実践に、集団精神療法がどう役立ち貢献できるのか。棚上げし続けることは簡単だけれど、私たちは考えることを選んだ。JAGP のために、私たちのために、隣人のために。

体験グループⅡ(入門コース)

【会員限定】

9:30~12:30

神宮京子 (群馬病院)
石川与志也 (ルーテル学院大学)

入門コースです。体験グループの経験の少ない方におすすめします。教育研修委員会の研修ポイント対象プログラムではありません。

基礎講座 **【会員限定】** **9:30～12:30**

関百合 (クボタ心理福祉研究所)
鎌田明日香 (大通りつげのクリニック)
加藤隆弘 (九州大学病院精神神経科)

今回の基礎講座では、グループをいつか始めようと思っている方々、グループを手探りで始められている方、もう一度日頃のグループを振り返りたい方のために、グループを始めるにあたっての留意点や工夫を盛り込んだ「グループの始め方」についてレクチャーを行いたいと思います。また、その中でオンラインでのグループの運営にも触れたいと思います。その後、実際にグループ体験を経験していただき、最後にレビューを行う予定です。

自主ワークショップ ⑥ **9:30～12:30**

日本学術会議会員任命拒否問題を集団精神療法家が考える
—第2回 トップダウン型の組織運営について—

荻本快 (New Center for Psychoanalysis)
藤 信子 (所属なし)
藤澤美穂 (岩手医科大学)
水野高昌 (帝京平成大学)
榊恵子 (神奈川県立保健福祉大学)
前田 潤 (室蘭工業大学)

2020年9月、日本学術会議の会員候補として推薦された6名の任命を菅義偉首相が拒否しました。2021年10月現在、日本集団精神療法学会は学会として声明や意見の発表をしていません。昨年度おこなわれたワークショップの国内外の反響を受け、2回目を企画しました。任命拒否問題をきっかけに、私たち自身に起きていること、所属している集団・組織における問題、トップダウン型の組織運営について、皆さまと共に考えていきたいと思っています。非会員の方にもご参加いただけます。

自主ワークショップ ⑦ **【会員限定】** **9:30～12:30**

いわゆる「Dr. Y 問題」と呼ばれる出来事と「学会のトラウマ」をめぐって
— part IV 22+4年目のワークスルー —

菊地寿奈美 (京都市スクールカウンセラー)
浅田護 (浅田心療クリニック)
河合健彦 (群馬病院)
田辺等 (北星学園大学)

1995年、ある学会員の被指導者に対する加害行為により、学会というグループは大きな影響を受け、それは学会のトラウマとも考えられた。我々はこの出来事に付随する情緒を語る場としてWSを継続している。WSでは、我々自身に現在も生じている様々なトラウマ的な体験が想起され、触れ難いものに触れようとする切実な試みを体験してきたように感じている。当該の問題を「学会のトラウマ」として考え続けながらも、過去の振り返りのみではなく、現在も社会や組織、人の関係性の中にあるトラウマを引き起こしてしまう傾向に気づき、多様な立場と視点から考え続けることで、“ワークスルー”に取り組むことが本WSの目的である。

自主ワークショップ ⑧ **9:30～11:00(90分)**

コロナ禍における精神科救急病棟での集団精神療法の実践と意義

ーパンデミック下でグループの果たす役割ー	
高富栄（ココロのクリニック） 吉川真衣（大阪医科薬科大学神経精神医学教室） 福澤宏之（北海道大学病院） 森本松子（八幡厚生病院） 二之宮正人（八幡厚生病院） 東端憲仁（北海道立緑ヶ丘病院）	
オンラインでのシナリオシナリオロールプレイを通じてコロナ禍でのグループの意義について検討します。抄録に書かれた注意点を遵守ください。	

自主ワークショップ ⑨	9:30~12:30
こうえん ー出入り自由の体験グループー	
野中稔（保健同人社） 藤澤希美（国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科） ト部裕介（関東中央病院）	
「こうえん」は、参加資格制限なし、定員なし、参加者の出入りが自由の体験グループです。参加者は、開始されたグループに途中からメンバーが入ったり、出ていくという人の出入りにまつわる感情体験をします。グループを運営している方、これからグループを始めたい方、職場のグループを継続するのが大変な方、休憩したい方、「こうえん」に興味のある方など、ぜひ出入り自由の「こうえん」でグループ体験をしてみませんか。	

20 日(日) PM 【Live 配信】

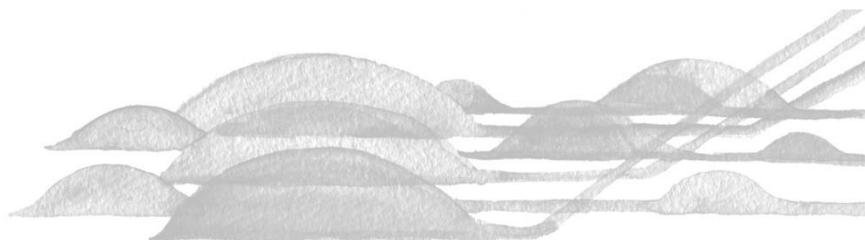
フィッシュボールグループ・シンポジウム	14:00~17:00
未来へ継承したい集団精神療法のエッセンス	
内側グループ <シンポジスト> 相田信男（群馬病院） 高林健示（クボタ心理福祉研究所・東京集団精神療法研究所） 西田知佳子(NPO 法人ハピネスト)	
<メンバー> 那須里絵（国際基督教大学 教育研究所） 猪狩恒太郎(NPO 法人リトルポケット) 庄司真理（東京都立学校スクールカウンセラー） 佐藤裕宗（医療法人社団草思会 錦糸町就労支援センター） 藤澤希美（国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科） 加藤祐介（赤城高原ホスピタル）	
<コンダクター> 梶本浩史（東京都立学校スクールカウンセラー） 大橋良枝（聖学院大学）	
大グループ <コンダクター> 梶本浩史（東京都立学校スクールカウンセラー） 大橋良枝（聖学院大学）	
いつか大会長を引き受けたら、シンポジウムはフィッシュボールグループでやりたいと考えていました。シンポジストは熟練者でありながらも教える役割に甘んじることなく相互研修から学び続けていると感じられる方々に、内側グループメンバーには熟練者に対しても一方的に「教えてください」というスタンスにならずに、感じることや考えることを発信して、グループで学びあっていると感じられる方々に依頼しました。	

21 日(祝)

【対面開催】

タイムスケジュール

9:30~9:50	受付
10:00~10:30	大グループ(全会場をオンラインで繋ぎます:30分)
10:30~11:45	各地の演者による「未来へ継承したい集団精神療法のエッセンス」+質疑応答(各地の会場:75分)
11:45~13:00	
13:00~14:15	体験グループ(各地の会場:75分)
14:15~14:30	
14:30~15:45	体験グループ(各地の会場:75分)
15:45~16:00	
16:00~16:30	大グループ(全会場をオンラインで繋ぎます:30分)
16:30~16:35	
16:35~16:45	JAGP39 閉会式(全会場をオンラインで繋ぎます:10分)



3/5(土)~21(祝) 一般演題

【オンデマンド配信】

配信期間: 3月5日(日)~3月21日(祝) コメント欄書き込み: 3月20日(日)16:30まで

I. 児童・思春期・青年期/ 学校教育/ 福祉

1. 児童思春期を対象としたゲーム・ネット依存の集団精神療法 — ネットでしか繋がれないメンバーとともに「リアルな繋がり」を模索する過程—
稲永要・上西章人・堀川直希(のぞえの丘病院)
2. 小学生における言語媒介グループ —「ちくちく言葉」が心に触れる言葉になるまで—
佐藤真優・山口まどか・堀川直希(のぞえの丘病院)
3. 入院中の中学生を対象とした言語媒介グループ — 男子 A を排除し受け入れていく中でメンバー自身の葛藤に触れる過程—
山田悠未・連理貴司・堀川直希(のぞえの丘病院)
4. 被虐待児の言語媒介グループ —「繋がらない」児童の困難さに触れて—
小山龍太・谷口真希・菊池清美・堀川公平(社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園)
5. 児童心理治療施設における SST — 被虐待経験をもつ児童の実態に沿った実施方法の模索—
谷口真希・菊池清美・堀川公平(社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園)
6. グループ状態認知尺度から見る中学生の友人グループ —学校間および性差の比較—
山口千鶴(埼玉工業大学大学院人間社会研究科)・巖岩秀章(埼玉工業大学)

II. 医療(入院)/ 医療(外来)

7. 災害時の継続決定が凝集性を高めたのか — 山火事の渦中、休まないことを選んだグループ—
桜庭拓郎・山崎愛実(医療法人恵愛会青木病院)
8. グループ療法的内的対象の発達とそれを阻むもの(その1) — 大昔の病棟コミュニティミーティングを素材に考える—
浅田護(浅田心療クリニック)
9. 新入院患者ミーティングが治療者集団に与える影響
大川稚衣・古賀禎也・堀川公平(のぞえ総合心療病院)
10. 茶話会グループの実践を通しての入院患者のリハビリと看護師のエンパワメント — 精神科病棟におけるアクションリサーチ—

塩澤己寿枝(日本赤十字看護大学大学院看護学研究科)

Ⅲ. Covid-19/ オンライン・グループ

11. COVID-19 感染拡大に際しての学級ミーティングの試み
—小・中学校 6 校での学級活動の報告—

成井香苗
(福島県スクールカウンセラー・スーパーバイザー/ 白河・郡山メンタルサポート/
NPO 法人ハートフルハート未来を育む会)

12. 中皮腫遺族を対象としたオンラインでのピアサポート支援

大島寿美子(北星学園大学)・鴨澤あかね(北星学園大学)・泉屋有理(相川記念病院)

13. カウンセリング事例のオンライン・グループスーパービジョン

野島一彦(跡見学園女子大学)

14. コロナ禍のグループ心性(2) —コンテイナー・コンテインドモデルからみた医療崩壊—

黒崎優美(神戸松蔭女子学院大学)

Ⅳ. デイケア

15. 重度認知症の方々との集団精神療法の試み —グループで歌うとき, 踊るとき—

勢島奏子(医療法人すずらん会 たろうクリニック)

16. 多機能型精神科クリニックにおけるデイケアのコミュニティミーティング
—戦火にまみれたデイケアでミーティングをした事例とその意義—

埜雄士・浅田護(医療法人あさだ会 浅田心療クリニック)

